

ペットと住めるシェアハウス

コンセプト・地域への効果

このシェアハウスは言うなれば小さな動物園のようなものである。

動物好きな人が集まることで自然とコミュニケーションがとれ、ペットの散歩で家の外でもコミュニケーションが生まれ、地域を活気づけることにも貢献できる。

シェアハウスの住人が仕事に出かけている時間帯は、リビングをペットカフェとして貸し出す前提にする。地域のペット愛好家の溜まり場として地域に溶け込むことが出来ると共に、これまで仕事に出かけている間部屋に閉じ込めていたペットを、ペットカフェに預かってもらう事も可能になり、さらに安心して働くことが出来るメリットも生まれる。

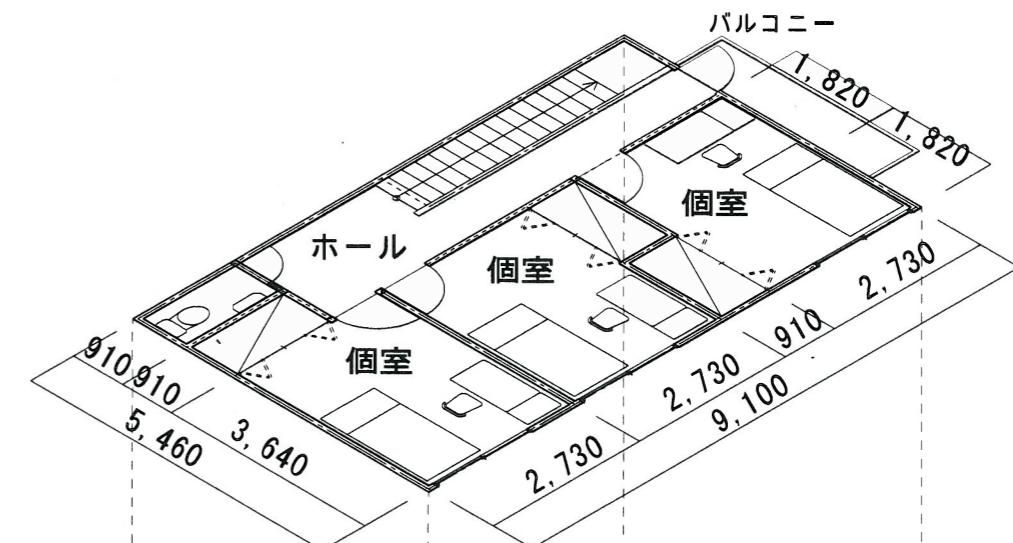
なにより住人にとっては、これまでの肩身の狭い思いから解放され、気軽にペットと暮らすことができ周囲もペットの飼い主ばかりといった志向の合う人たちと、安心して快適に生活を楽しむことができるようになる。



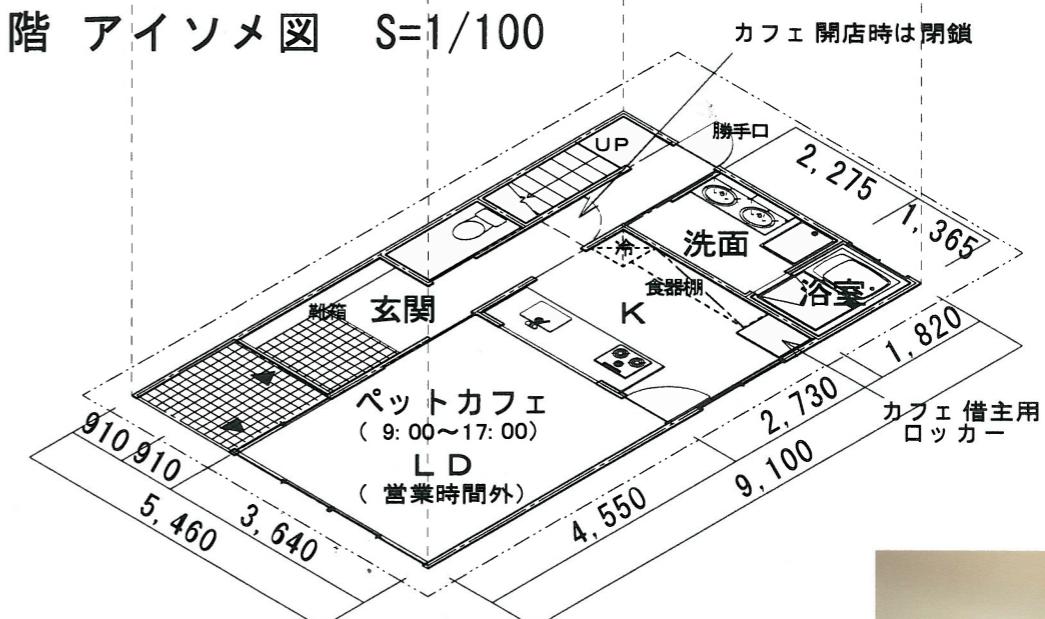
所在地：鹿児島市内の元店舗付住宅の空き家

(鹿児島県内の市部の市街地の空家なら適用可能)

活用イメージ（間口3間の店舗付き住宅を改修した場合の平面計画）



2階 アイソメ図 S=1/100



1階 アイソメ図 S=1/100

空き家所有者とD.I.Y賃貸契約を締結した運営管理事業者は入居予定者とも調整し、予定賃料に収まる費用の範囲内で、カフェ等として貸し出すリビングの改修を実施する。

シェアハウスの性格により内容は変化するが、音楽愛好家の楽器演奏のための防音室といったケースも当然考えられる。



(猫カフェのイメージ)

運営システムについて



- ① シェアハウス運営管理事業者（NPO含）と空き家の所有者が
D.I.Y型賃貸契約を締結
(空き家バンクシステムで運営管理事業者と貸出希望者を募集)
- ② シェアハウス運営管理事業者がインターネットで、シェアハウス
居住者とペットカフェ借主の入居者募集
(賃料、利用規約(居住者とカフェ借主との関係含)を明示)
- ③ 運営管理事業者との個別面談後、最終候補者全員の面接会を経て
合意成立後、賃貸契約

提案する活用モデルの発展性

提案する空き家をシェアハウスとして活用するモデルは、通常保証人を必要としない運用が可能でペットだけでなく、同じ趣味を持つ人々は勿論、賃貸契約で断られる例の多い人々（例えば障害者や外国人労働者、LGBT等）の住まいの確保にも幅広く期待でき、今まで気兼ねをしながら、又、肩身の狭い想いをしながら住む場所を探してきた人々への住居を提供するシステムとして機能する可能性が期待できる発展性と社会的意義を持つと考える。